

スタッフからのメッセージ



私は、摂食・嚥下障害（せっしょく・えんげしょうがい）看護認定看護師です。摂食・嚥下障害とは、口の中の食物を飲み込み、胃に送る一連の過程のどこかで障害が起きている状態のことを言います。認定看護師とは、特定の分野において専門的な研修を受け、日本看護協会の認定審査に合格し、その分野の専門家として認められた看護師です。

ティンクルなごやでの私の主な役割は、利用者さんが口から食べることができるかについての評価、ひとり一人に合った嚥下訓練や食事内容の提案、誤嚥・肺炎予防のための姿勢・食事介助方法の提案、誤嚥・肺炎予防ケア、栄養管理、経鼻胃管や胃ろうの説明と管理、飲み込みと誤嚥の仕組みの説明、嚥下機能に良い悪い影響を及ぼす薬剤の助言、スタッフやご家族への説明・指導・相談対応などです。主役はいつでも利用者さんをご家族です。私は、利用者さんとスタッフの調整役として、利用者さんの摂食嚥下に関するケアを医療チーム全体で実施できるようにサポートしていきたいと考えています。

看護師 濱崎 佳奈



私はティンクルなごやに入職し、初めて重度の障害を持っている方と関わりました。そのため戸惑うことや知らないことも多く、私に務まるのだろうかと不安もありましたが、先輩方やご家族、利用者さんに支えられながら、障害児者の療育についても積極的に学び、充実した毎日を過ごしています。

前職の介護老人福祉施設では、業務の時間に追われていたため週2回の入浴も難しいことがありましたが、ティンクルなごやでは利用者さんが快適に過ごせるように週3回の入浴ができていたことは私が感激したことの一つでした。

利用者さんのわずかな変化に気づき、利用者さんにとって楽しく豊かな生活を送れるように支援を続けていきたいです。

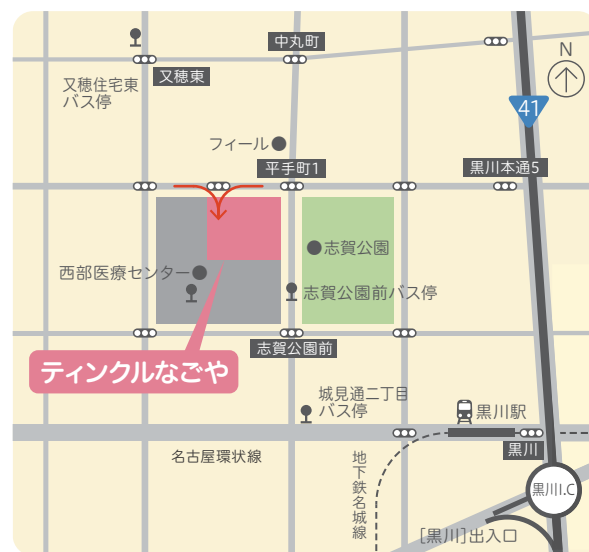
生活支援員 浅井 香帆



妊娠9か月の頃、赤ちゃんが障害を抱えて生まれてくる可能性が告げられました。その子は生後すぐに天国へ旅立ちましたが、「いつかこの経験を役立てることが、この子が生まれてきた意味なのだ」と思いました。子育てが一段落し、資格取得のために専門学校へ通いました。そこで重症心身障害について学び、ティンクルなごやを知り、ぜひここで働きたいと志願しました。

そんな意気込みで入職しましたが、日々の暮らしの中で、笑ったり、泣いたり。偽りなく、真っ直ぐに向き合って下さる利用者さんに私自身が癒されていると感じています。障害を抱えた娘を育てていくと決意した時、自分がなくなった後のこと、他の姉妹のことを考えました。ティンクルなごやが、「利用者さん、ご家族の未来に向かって寄り添える場所であれ」と思っています。

相談員 竹内 真由美



■公共交通機関でお越しの方

○栄より／市バス栄11系統「西部医療センター」又は「志賀公園前」下車

○名古屋駅より／市バス名駅13系統「又穂住宅東」市バス名駅15系統「城見通二丁目」または「西部医療センター」下車

■お車でお越しの方

「黒川」出口から約10分です。



〒462-0057 名古屋市北区平手町1丁目1番地の5
TEL: 052-916-0333 FAX: 052-916-0338
<https://twinkle-nagoya.com>



ティンクルなごやについての情報はホームページでもご覧になれます。左記QRコードからもアクセスできます。

目と目、手と手で伝えるケア、
ともに生きる喜びを分かち合う。



ティンクルなごや 院長

山下 伸子

ティンクルなごやは平成27年4月に開設されました。

ティンクルなごやでは、重い障害を持った方たちが、医療や看護、介護を受けつつ、テレビやDVDを見たり、音楽を聴いたり、遊んだりしながら、日常の生活を送っています。そして、面会に来てくださったご家族と一緒に語らい、本を読んだり、散歩をしたりして、くつろいだ時間を過ごしています。雑祭、運動会、ハロウィンパーティー、クリスマス音楽会など、さまざまな季節のイベントも催され、ご家族にも楽しんでいただいています。

体調を崩しやすい方も多くいらっしゃいますので、医師や看護師は健康管理に常に気を配り、気持ち良く生活していただくために、スタッフ全員で取り組んでいます。

生命と生活を支え、みなさんに安心して過ごしていただけるよう、医療やサービスの充実に努めて参ります。





ユニット

2階の一部と3階が利用者さんの生活の場になります。90床が6つのユニットで構成され、各ユニットには、星や星座の愛称がつけられています。居室は、個室、2人部屋、4人部屋を用意しています。動きがある人も安全に過ごせるよう、床ベッドも用意しています。居室は夜眠る時や、静かに過ごしたい時に使い、昼間は主にデイルームで、みんなと一緒に過ごします。



スタッフステーション

24時間365日体制で生活の支援を行なうスタッフの活動拠点になる場所です。

スヌーズレンルーム

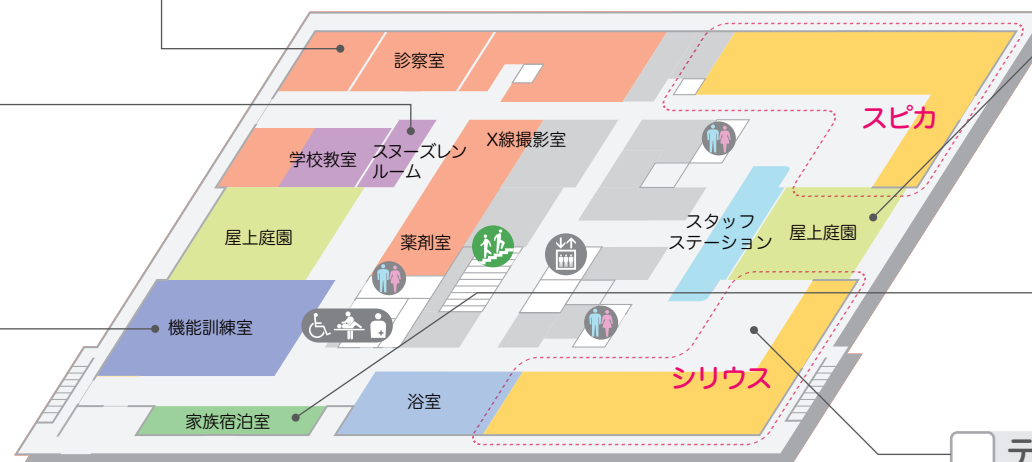
オランダで生まれた、重い障害のある人も楽しめる活動が「スヌーズレン」です。光、音、におい、振動、温度、触覚などの心地よい刺激の中で、「自由に探索したり、くつろぐ」ことができる場所です。



診療部門

おだやかな生活を送れるよう、日常的な健康管理に加え、必要な医療を提供しています。

2F



家族宿泊室

ご家族もくつろいで宿泊していただける部屋を用意しています。

デイルーム

家庭でいばりリビングルームのような、昼間のレクリエーションや食事などで仲間と一緒に活動的に過ごせる場所です。



機能訓練室

関節や筋肉の状態を整え、姿勢を工夫することで、「自分でもできる」体験を広げることを目指します。痛い思いをして頑張るのではなく、楽しく気持ちよく、思わず体が動いてしまうリハビリを目指します。



多目的室・交流ホール

ウェルネスガーデンが目の前に広がり、志賀公園もすぐそこです。利用者さん、ご家族、地域の人たち…。さまざまな人たちが交流することのできる場所です。



厨房

管理栄養士によって調整された食事が、委託業者によってここで調理されます。食べる楽しみを大切に、さまざまな工夫を試みます。



浴室

昇降式の機械浴と、ミスト浴を用意しています。清潔のためだけではなく、心地よさと職員とのコミュニケーションの場でもあります。



屋上庭園

空調の整った部屋で快適に過ごすことも大切ですが、外に出て、自然の風に当たって、季節を感じることは、特別な気持ちよさと開放感があります。

「理念」

すべての人の生命、最も弱いものの生命がひとりももれなく守られ、成長が育まれ、豊かな人生が過ごせる社会の実現に寄与します。

「基本方針」

- 生活支援 安心、安全、思いやり、温もりのある療養環境を提供します
- 在宅支援 親子が最適な支援を受けられるようネットワークの活用を推進します
- 地域移行支援 施設入所、在宅生活の円滑な移行を支援します
- 地域連携 地域社会や地域の医療、福祉、保健機関との連携を推進します
- 公平な施設運営 可能な限り在宅生活を推進し、公平な施設利用を目指します

「施設概要」

- 施設名：名古屋市重症心身障害児者施設（愛称：ティンクルなごや）
- 設置者：名古屋市
- 施設種別：医療型障害児入所施設（障害児入所支援） 障害福祉サービス事業所（療養介護・短期入所）
- 定員：90人（空床利用による短期入所10人を含む）